

月報 シオン山

2024年3月3日発行 (No402)

日本バプテストシオン山教会

☎803-0846 北九州市小倉北区下到津2-15-21

Tel(093)561-0772 Fax(093)561-0760 E-mail:bapshion@eagle.ocn.ne.jp

【月間聖句】

これらのことを話したのは、あなたがたがわたしによって平和を得るためである。あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている。

ヨハネによる福音書16章33節

戦後を背負ってきた方の思い出

島田利一

私が東京から北九州市に戻って来てからの事でした。東京在住時に勤めていた仕事内容を基に、地元の北九州市内で会社を設立出来ないかと考えて見たが、何かと準備不足、特に設立資金が足りず、北九州市に戻って来た時に知り合ったコンビニエンスストアの経営者の方からの誘いで、コンビニでアルバイトをする事になった。未だ私がこのシオン山教会に復帰する以前の事である。

最初は何かと仕事内容を覚えていくのは一苦労だったが、仕事内容を覚えて行くと自分なりのペースで業務をこなせる様になって、お客様との会話も弾む様になった。

住宅街の中にある店である事もあって、お客様の多くはご近所の方々に、その多くが常連さんである。その常連さんの中に、年老いたご夫婦がおられた。お年は当時ご主人の方は94歳であったとお聞きした記憶がある。いつも、ご主人が奥様の手を引かれて仲睦まじい様子で来店されていた。その後、いつしかご主人お一人で来店される様になった。奥様が他界されたとの事であった。

その方はお店の近くで、開業医をされていた T 先生であった。外科医の先生で、医院は廃業されていたが、立派な建物は残っていた。ある日の事である。T 先生が来店されて、私に話があるとの事である。「都合の良い日で良いから」と言われ、日時を都合して御自宅に伺った。医院の隣だが、T 先生はまず医院の中を案内してくださった。元外科医だけあって、処置室と書かれている手術室もあり、全体的にひんやりとした空気の流れの中にいた自分を覚えている。それから隣の自宅でお茶を飲みながら T 先生のお話しに耳を傾けた。T 先生は「この建物を借りて欲しい」と言われた。どうやらコンビニの社長から、私の事を聞いたらしい。私は「先生、建物が大き過ぎて借りる事は無理です。」

病室まで付いている建物は手に余るのである。それから自然と雑談に話しが代わって言った。

T 先生は K 大学の医学部出身で、卒業後は同大学病院に勤務されていたと話された。私はふと、戦時中の K 大学病院事件の事を思い出した。小説や映画にもなった事件である。T 先生にその事件の事を聞いてみると暫く沈黙されていた。そして沈黙の後に「私も当事者の一人です」と言われた。私は、衝撃が走った。自分の身近にこの事件の関係者が生存していたとは思ってもよらなかったのである。

T 先生は、「終わった昔の事です」と言われた。私は「先生、誰かにこの事を話されましたか」と尋ねると「私の胸の内に閉まって置けば良い事です」と言われた。

私はこれ以上この話しを進める事が出来なかった。T 先生のお気持ちを考えたのである。但、T 先生は「あなたなら、私の過去の事を伝えても良いかと思いました」と話された。誰かに胸の内を告白したかったのであろうと私は思った。

それから時が流れて個人事業主に私はなった。年末になり、かつてアルバイトをしていたコンビニの社長からお節料理の予約の電話が入った時私は T 先生の事を尋ねた。社長の口から「先生が、他界されて久しい」との話しを伺った。この事を一人で背負われた戦後の T 先生を思うと私は胸が熱くなった。

日時を改めて、コンビニ時代によく商品をお届けに伺った T 先生のお孫さんの御自宅に伺った。私を見ると懐かしさもあつてか気持ちよく部屋に案内してくださった。部屋には T 先生御夫妻の仲睦まじい、お写真が飾ってあった。そして医院も今は無い。